

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応 募 者 に 関 す る 情 報

記入日：2012 年 11 月 30 日

応 募 者 情 報	
応 募 団体名	(フリガナ) ハンキュウデンテツカブシキガイシャ、 カブシキガイシャハンキュウリテールズ (団体名) 阪急電鉄株式会社、株式会社 阪急リテールズ <small>※協働プロジェクトでの応募の場合は、代表団体名以下プロジェクトに参加している主な団体名をご記入下さい。</small>
応 募 担当者 連絡先	団体名： 阪急電鉄株式会社 所在地： 〒 530-8389 大阪市北区芝田一丁目 16 番 1 号 部署名： 都市交通事業本部 都市交通計画部 役職名： 部員 氏 名： 三神 浩平 TEL： 06-6373-5031 FAX： 06-6373-5680 E-Mail： mikami-kouhei19@hankyu-group.jp
ホームページ	http://dentetsu.hankyu.co.jp/
応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大 2000 字入力できます。詳細は別紙添付可） 運輸業（鉄道業）	

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data_list.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

「日本初の『カーボン・ニュートラル・ステーション』 阪急摂津市駅」

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

<カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>

カーボン・オフセットの取組内容に関して、オフセットの対象範囲をお書きください。

【例】3①-1に記載した算定範囲と同じ or 算定範囲のうち、○○、○○の部分に関してカーボン・オフセットの対象とした

3①-1に記載した算定範囲の内、応募用紙③「1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力」により削減できなかった CO2 排出量についてオフセットの対象とした。

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

カーボン・オフセットの実施期間についてお書きください。その際、2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを実施継続している事例または2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを開始した事例であることが応募にあたっての必要要件となりますので、御注意ください。

開業日（2010年3月14日）より継続

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

自社HP等、カーボン・オフセットの取組をウェブに掲載されている場合は、URL を記載願います。

<当社、当社グループの Web>

- ・ <http://dentetsu.hankyu.co.jp/kankyo/tetu/tetu03.html>
- ・ http://holdings.hankyu-hanshin.co.jp//eco/information/information_110314.html
- ・ http://holdings.hankyu-hanshin.co.jp//eco/information/information_120423.html

<プロバイダー>

- ・ <http://www.offset-design.jp/a01aag1/index.asp>

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

①-1 排出量の算定方法及び算定範囲

【例】製品〇〇〇についてLCAを実施、排出量は1製品あたり〇〇〇kg

【例】イベント開催における、関係者の交通移動、会場の使用電力量、廃棄物処理に伴う排出量、算定方法については環境省の算定ガイドラインを用いた。総量〇〇トン

①-2 排出量の算定に利用したデータ種類

【例】電力使用量、ガソリン使用量、

(自己活動オフセット支援以外の場合)

①-1 排出量の算定方法及び算定範囲

駅の運営に起因するCO₂排出量を算定範囲としている。具体的には駅舎・ホーム・売店等の照明、エレベーター、改札機・精算機などの駅務機器、空調機器、飲料自動販売機により消費する電力量と、トイレ洗浄、緑地散水等により使用する水道量を対象としている。

算定方法は、開業前については駅の設備や乗降客数等が類似している既存駅を参考に想定値として算出し、開業後は摂津市駅における電力使用量、水道使用量の実績値を使用し、温室効果ガスの排出量に換算している。

①-2 排出量の算定に利用したデータ種類

電力使用量、水道使用量

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください(複数可)。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1. CO₂ 排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

- 節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ
 その他(具体的に _____)

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

使用したクレジット等の種類をお書きください。なお、異なるクレジットを併用した場合の各割合(%)についても記載してください。【例】J-VER(〇%)、CER等(△%)など

J-VER

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

使用したクレジット等の具体的な温室効果ガス削減・吸収プロジェクト名をお書きください。

兵庫県森林組合連合会による間伐促進型プロジェクト

(兵庫県宍粟市一宮町での兵庫県東河内株山共有林森林管理プロジェクト・兵庫県東河内生産森林組合森林管理プロジェクト)

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

取消、償却実施年月、もしくはその予定についてお書きください。

2012年4月に駅開業から2年分(2010年3月14日~2012年3月13日)について無効化を実施した。無効化したCO₂排出量は84t-CO₂である。

http://www.offset-design.jp/credit_invalid/20120424hankyuhanshin.pdf

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ①CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ②CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

○ CO2 排出削減努力

摂津市駅では、下記の環境配慮設備（施策）を導入し、駅の運営に起因する CO2 排出量を通常の駅と比較して約 42%削減をしている。

- ・ 太陽光発電装置
駅のホーム上家に太陽電池モジュール（180w）を 392 枚設置し、年間約 6 万 kwh を駅の照明・駅務機器などに供給している。
- ・ LED 照明
駅舎・ホーム等の照明（非常照明を除く）に、LED 照明を全面採用し、Hf 蛍光灯と比較して年間約 2.8 万 kwh を節電している。
- ・ エレベーター回生電力使用
かご室—おもりの惰行運転による回生電力をバッテリーに充電し、力行運転時には商用電源とバッテリーの両方から電力を供給することにより、年間約 300kwh を節電している。
- ・ ヒートポンプ式給湯器
駅務室等で使用している給湯器に、ヒートポンプ方式による省エネ機器（エコキュート）を導入し、年間約 4,000kwh を節電している。
- ・ 雨水利用
ホーム上家に降る雨水を貯蓄し、トイレ洗浄水や緑地散水に利用することで、年間約 600 m³ を節水している。
- ・ 無水トイレ
駅構内の男性用トイレに、洗浄時に水を使用しない無水小便器を導入し、年間約 120 m³を節水している。
- ・ 緑化推進
駅周辺において植栽を、また駅舎壁面にも緑化を施している。

○ CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫・成果

- ・ 当社グループでは、「より地球環境にやさしい都市交通事業をめざして」、「より地球環境にやさしい沿線地域をめざして」という環境ビジョンを掲げており、環境負荷低減の取組とし

て本取組を実施している。

- ・ 太陽光発電装置、LED 照明、エレベーター回生電力使用については導入コストを抑えるため、補助金を活用して設置した。（太陽光発電装置は経済産業省の「地域新エネルギー等導入促進事業」、LED 照明・エレベーター回生電力使用は大阪府の「大阪府民間事業者省 CO2 設備導入支援事業」の補助金を活用した）

2. カーボン・オフセットの内容

①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。

②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

摂津市駅の立地する南千里丘地区は「地球温暖化対策モデル地区」として環境配慮型のまちづくりが進められており（詳細は③－5）、まちの玄関口として新たに設置された摂津市駅で本取組を実施することでシンボリックな役割を果たしている。

カーボン・オフセットの内容としては、「1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力」により削減できなかった残りの CO2 排出量については、兵庫県森林組合連合会と株式会社日本オフセットデザイン創研が共同で提供している「森林カーボンオフセットサービス」を利用してオフセットする。なお、駅開業日である 2010 年 3 月 14 日～2012 年 3 月 13 日までの 2 年間のオフセット量は、84t-CO2 である。それに加えて、駅開業を記念する列車の走行（詳細は③－4）に起因する CO2 排出量 267t-CO2 についてもオフセットの対象とした。

今回のオフセットのクレジット選定に際しては、地域に密着した鉄道事業の特性に考慮をし、関西でのプロジェクトによるクレジットであることを重視した。2012 年度末で上記オフセットサービスとの契約期間が終了するため、2013 年度以降の利用クレジットについては今後検討することになるが、上記オフセットサービスの利用を終了する場合も、関西でのプロジェクトによるクレジットを利用したいと考えている。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

①自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献

②自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第 1 次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献

③自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献

④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

今回の取組では、駅設置だけではなく後述する端末交通を充実させることにより、沿線のお客様に対して、環境負荷の低い公共交通の利便性を向上させた。

第一に、摂津市駅ではレンタサイクル事業を展開している。自転車は鉄道同様、環境負荷の低い乗り物であり、同駅では普通自転車 150 台、電動アシスト自転車 150 台を導入している。レンタサイクル施設においても環境配慮設備を導入しており、太陽光発電装置や LED 照明等を設置している。太陽光発電装置により、電動アシスト自転車の充電や施設内の照明・空調などに電力供給を行っている。

第二に、摂津市駅に乗り入れるバス（当社のグループである阪急バス株式会社が運行）については、バイオディーゼル燃料 100%バスを運行させている。バイオディーゼル燃料は当社グループ会社の惣菜店舗から発生する使用済みの食用油から精製されて作られた燃料であり、鉱物性燃料と違い大気中の CO2 を新たに増やさず、酸性雨の原因となる SOx（硫黄酸化物）も発生しない。

このように駅だけではなく、端末交通においてもまちづくりのコンセプトである環境配慮を実施し

ている。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。

②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。

○ 創意工夫

- ・ 駅構内の様々な場所（プラットフォーム、駅構内連絡地下道）において、駅で採用した環境施策や環境技術に関する解説を実施している。
- ・ 東改札口前に設置されているモニターにおいて、駅で採用した環境施策や環境技術を紹介した上、太陽光発電による現在の発電量、駅開業時から現時点までに至るまでの累積発電量を表示している。
- ・ 駅に設置している広告看板についても、行政やスポンサー企業の協力を得て、環境をテーマにした看板に統一している。
- ・ 駅開業を記念し、環境メッセージ列車「カーボン・ニュートラル・トレイン 摂津市駅号」を2010年3月14日～同年7月31日まで運行した。同列車は駅開業を記念するラッピングを施し、NPO団体の企画監修のもと、環境省、国土交通省、沿線自治体と連携をしながら、車内の全てのポスターやドア上のモニター等を用いて、各団体の環境の取り組みや摂津市駅で実施している環境施策等の情報を発信した。なお、本列車が運行期間中に使用した列車の運転電力についても、摂津市駅同様にオフセットの対象とした。
- ・ 経済産業省の認定を受けた「大阪ベイエリア・堺次世代エネルギーパーク」を構成する施設の一つに組み入れられている。（2011年2月～）
- ・ 大阪府が実施した「緊急雇用創出基金事業 大阪ベイエリア・堺次世代エネルギーパーク普及啓発事業」にも参画した。（2011年上期）
- ・ 沿線の教育委員会の依頼をうけ、グループで毎年小中学校教諭の企業研修の受入れをし、CSR（企業の社会的責任）の取り組みや、企業の人材育成について学んでもらっている。このプログラムの中に摂津市駅の見学も組み入れており、毎年複数の先生方が研修終了後、企業の環境の取り組みの実例として摂津市駅の取り組みを題材にした環境の授業をした旨の報告を受けている。

○ 成果

- ・ 2012年度時点で、一日平均（平日）で約10,000人の乗降客数を誇る駅である。
- ・ 開業から3年弱が経過しているが、現在でも取材や見学会開催の要望を受けている。昨年末から今年にかけては、中国・韓国・ロシアのテレビ局からも取材を受けており、国内だけではなく海外からも注目をいただいている。見学会は、行政団体や民間企業等からの要望に対応する形で、また駅周辺や沿線の方々に当駅の取り組みに触れていただく機会として、開業から現在までで約500人以上の方に参加をいただいている。
- ・ 「創意工夫」の最後にも記載しているが、摂津市駅の取組が教育現場等で活用されている。
- ・ レンタサイクルの利用者に対してアンケートを実施したところ、回答者の約6.5%が交通手段として自家用車・タクシーからレンタサイクルに転換したと回答があり、モーダルシフトの動きが見られる。（アンケートは平成23年2月～3月に実施、回答者数は79）
- ・ 駅での取り組みを評価いただく形で、「平成22年度省エネ照明デザインアワード（環境省主

催)」や「平成 22 年度近畿運輸局交通関係環境保全優良事業者等表彰（国土交通省近畿運輸局主催）」、「第 9 回日本鉄道賞 表彰選考委員会特別賞（「鉄道の日」実行委員会主催）」等を受賞した。

5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
- ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。

摂津市駅が立地する南千里丘地区は摂津市が主体となってまちづくりを進めている地区であり、土地区画整理事業等で基盤整備を行い、公共施設などを再配置するなどして、市域の利便性向上を目指した新たな都市核づくりが進められている。また同地区は、平成 20 年度に環境省の低炭素地域づくり面的対策推進事業のモデル地区の指定を受け、地球温暖化問題に取り組むため、「地球温暖化対策モデル地区」として、環境配慮型のまちづくりを推進してきた。駅前にある摂津市立コミュニティプラザ（公共施設）や民間分譲マンションにおいて、太陽光パネルが設置されているなど、まち全体が環境配慮型になっている中で、当駅は同地区の玄関口として「地球温暖化対策モデル地区」のシンボルの役割を果たしている。

摂津市駅で導入されている環境設備の一つ一つを見ると革新的な技術が採用されているわけではない。ただし、一つの駅の中でこれだけの環境設備（施策）を集約しただけでなく、「森林カーボンオフセットサービス」を活用することで、駅の運営に関わる CO2 排出量ゼロを実現している事例は日本初の試みであるといえる。またハード面の整備をして完結するのではなく、開業後に環境メッセージ列車「カーボン・ニュートラル・トレイン 摂津市駅号」を運行させることでこれらの取組を広く発信し、また駅構内の看板・モニターや駅見学会等で継続的に紹介することにより、一人でも多くのお客様に知ってもらえるよう発信し続けている。

お客様一人一人が環境問題に対する関心を高め、理解を深めてもらえることで、駅だけではなく地球全体の環境保全に繋がっている。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDF の場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG 等）お送りください。

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局

（担当：入山、井上）

〒東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 7 階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp